

Title	北畠顯家卿(中村孝也著, 全國奉贊會發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.3 (1939. 4) ,p.180(520)- 180(520)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390400-0180

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

らない。本書の價值はその完成を待つて益々大となるであらう。尙ほ著者にして本書の綱概を摘要し、右門心學小史ともいふべきものを編著せられたならば、一般人士に大いなる裨益を與へる事が出来ると思ふ。又本書再版の折もあらば、件名索引を今少し詳細にせられん事を望む。

思はずも妄言を重ねた。著者の寛恕を請ふと共に、改めてその偉大な努力に満腔の敬意を表する次第である。(菊判本文一三六七頁、挿繪一九九圖、附錄五葉、定價十三圓)(中井信彦)

北畠顯家卿 (中村孝也著)

後醍醐天皇の建武御鴻業は、朝權の回復と肇國の大精神の顯現にありしも、中途禍亂相踵いで挫折し、遂に南狩中崩御せらる。この間、幾多勤王忠臣烈士の父子兄弟相承けて殉節し、其の事蹟は燦然として青史へ一段の光彩を添えてゐる。就中、北畠顯家は

弱冠ならずして詔を拜承して皇子義良親王を奉じ東北邊疆の鎮府となり、又質樸剛毅の奥羽健兒を率ゐて二度畿甸に轉戰力闘し國家經綸の大策を披瀝しつゝ、遂に泉州の野に陣歿す。昨年其の六百年に際會し、顯家と因縁殊に深き福島縣に於ては全國同志の贊同を得て、同年十月二十二日を期し顯家奉祀の縣下伊達郡別格官幣社靈山神社に於て建武鴻業奉贊祭・北畠顯家卿六百年祭・建武忠烈景仰祭を修し、其の記念として奉贊會より中村孝也博士に委嘱し本書を上梓せしものである。顯家の傳としては本書を以て嚆矢とし、博士の該博なる知識による論證と流麗なる行文とは、克

前野蘭化 (岩崎克己著)

本書は顯家を主とするも其間親房、顯信、守親等一家の忠烈の事蹟も諸所に散見し、殊に終の一章を割きて北畠顯信の事蹟を記述し、更に顯家文書等七十餘通を選びて北畠顯家卿文書集と題して附載し讀者に多大の便宜を與へてゐる。就中、延元三年五月十五日戰死に先つこと七日の上奏文は實に時弊を釐革し綱紀を振肅せんとする熱意よりして、敢て直言しこ夜の覽に供し奉りたるもので、顯家の國家經綸を伺ふる史料で、熟讀すべきものである。

最後に著者は、かくの如く傑出せる顯家の人格の構成要素を分解して先天的には遺傳に基く天稟の秀抜と後天的には環境と修養とに由る異常なる鍛錬とを指摘することが出来ると述べてゐる。又顯信の事蹟につきては從來の所傳に、まゝ誤説あれば、他の其の傳の必要を述べられてゐるが、同書も亦博士の筆労を煩すことを切望する。

余、本書讀了後、二十有餘年前、靈山神社に參拜して神德を景仰し、又、昨春、福島宮城兩縣下に於ける各陸軍病院へ御慰問として御差遣の宮殿下に隨行して滿洲支那兩事變に奮戰、名譽ある戰傷を受けし數千の勇士に面接せしことを共に想起し、これ等勇士には其の昔北畠氏一家に隨ひ殉節せし勇士の熱血の通ふと思へば、自ら感激感謝の念に堪えぬ次第である。(十四、二、五、武田勝藏)